

6月12日(月)	
13:30～15:00	「重大事故から学ぶこれからの化学プラントの安全管理」 東京工業大学 中村 昌允 氏  2011年から化学プラントで起きた一連の重大事故の背景には、現場力の低下がある。それぞれの事故で問題となったリスクマネジメントのポイントについて、「リスクアセスメント」、「変更管理」、「設備システムの設計」の点から解説する。化学産業の歴史は幾多の痛ましい事故を経験し、その原因を究明し新たな技術やシステムをすることによって発展してきた。これからの安全管理は、製造現場で起きている「人」「設備」「管理」の変化を踏まえて構築する必要がある。特に、「人」の変化を踏まえた「人と機械との調和」、「システムの構築などの課題をどのように取り組んでいくかが問われる。
15:15～16:45	「Safety-I と Safety-II: 人間特性としてのレジリエンスを安全管理にどう生かすか」 慶應義塾大学 中西美和 氏  近年、ヒューマンファクター領域において、従来のよく知られてきた安全の考え方“Safety-I”からさらに発展的に、“Safety-II”の考え方が導入されつつある。また、この“Safety-II”における主要なキーワードとして、“レジリエンス”(人や組織の状況変化に応じた柔軟な働き)が注目されている。 この二つの安全の考え方を現場の安全管理にどう生かすかについて、様々な視点からの議論を紹介すると共に、レジリエンスを強化するためのポイントと可能性を示したい。加えて、これまでの議論の中でよく聞かれるSafety-IIやレジリエンスに関する質問・疑問についても触れたい。
17:00～18:00	親 睦 会
6月13日(火)	
9:15～10:45	「ヒューマンファクターツールを活用した従業員の“安全力”の向上」 JR東日本研究開発センター 楠神 健 氏  現場の安全力向上を目的に活用しているヒューマンファクターツールを紹介する。 具体的には、他箇所が発生した事象から自区所の教訓抽出を支援する『他山の石』置換え支援ツール、東日本大震災における避難誘導の分析およびそれに基づく臨機応変な対応能力を高めるための『異常時イメージトレーニング法』、現場の安全に役立つ情報の収集・共有化を促進するための情報バンク『安全ポータル』などについて紹介する。
11:00～12:30	「自律的安全活動による安全文化の構築」 ～トップダウンとボトムアップの融合～ 横浜ゴム株式会社 西 正幸 氏  「安全衛生は全ての基本である」という理念のもと、経営・全従業員で「人」「もの」「しくみ」に着目した安全活動を展開している。個々の作業者の意識の違いや考え方の違いを重んじながら対1人でコミュニケーションを図ることを目的とした活動の事例紹介。OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)をベースとした現場・現物、一人ひとりに迫る活動の展開によるリーダーシップとボトムアップの融合、安全の自律神経を養う取り組みについて考える。
12:30～13:30	休 憩
13:30～15:00	「安全文化は人とのつながり」 ～いいふれあい運動～ 日揮株式会社 西山 文雄 氏  従来、各職場で取り組んできた安全管理手法は、「管理技術」を重視した考えで、ライン側とすれば「やらされ感」が職場に存在しました。しかし、技術重視には限界があり、事故の最多原因である「ヒューマンエラー」の対応には限界を感じる次第です。 この運動は、人のメンタル面に着目し、作業関係者をはじめ管理者側が一体となって、「心の結びつき」による新たな安全管理手法、「いいふれあい運動」の推進によって、職場から事故・災害を未然に防ぐ取り組みについて紹介します。
15:15～16:45	「航空業界におけるこれからの安全管理について」 ～ Barrier Based Risk Management (BRM) ～ 日本航空株式会社 佐々木 敏宏 氏  一般的なリスク評価は結果の「重大度×頻度」のマトリックスによって表されるが、減多に起きない重大事故に関して、どの程度の頻度で発生するかを評価することは困難であると言われている。ジェームズ・リーゼンのスイスチーズモデルでは、組織、職場、人などそれぞれのバリアがすべて破られた場合に事故が発生すると言われていたが、事故を防止するバリアの健全性を評価するBarrier Based Risk Management (BRM)が、これからの航空業界における安全リスク管理手法として注目されている。現在、日本航空が導入しているBRMに関する具体的な取り組みを紹介する。